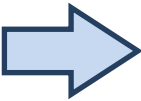


第7章 将来を展望した都市空間の創造 目次構成（案）

前回の部会の目次構成（案）
前文 第7章への導入
第1節 将来を展望した課題と取り組みの方向性（概ね20年先を展望）
1 人口減少・超高齢社会に対応した都市づくり
2 都市マネジメントが適切に行われる都市づくり
3 都市活動を活性化する都市づくり
4 環境首都・札幌の実現を支える都市づくり
第2節 目指す都市空間の姿（概ね20年先を目標）
1 目指す将来の都市空間 ～札幌らしい多様なライフスタイルを実現する持続可能な都市空間
2 都市づくりの目標
（1）安全・安心で暮らしやすい都市づくり
（2）魅力と活力ある都市づくり
（3）エネルギー効率の高い低炭素型の都市づくり
3 目標を実現する都市構造 ～集約型都市構造への移行
4 都市づくりを進める上で踏まえるべき視点 ～北海道の資源の発信・活用
第3節 都市空間創造戦略（今後10年の取り組み）
1 機能集約拠点戦略
（1）都心
（2）地域交流促進拠点
（3）高次都市機能交流促進拠点
2 都心まちづくり戦略
3 市街地再構築戦略
（1）複合型高度利用市街地
（2）郊外住宅地
4 ネットワーク強化戦略
（1）交通ネットワーク
（2）エネルギーネットワーク
（3）みどり空間ネットワーク
（4）創造ネットワーク
5 都市マネジメント戦略
（1）都市基盤のマネジメント
（2）防災マネジメント



- 現状・課題を都市基盤と「ビジョン編」で示した重要な3つのテーマに基づいて示す
- 踏まえるべき視点を2節から1節へ移動
- 踏まえるべき視点に「創造的な活動の展開」を追加
- 構成を見直し
- 「都市づくりの目標」は「ビジョン編」の第5章に示す3つのテーマ「暮らし・コミュニティ」「産業・活力」「低炭素社会・エネルギー転換」とするため、7章への記載はしない。
- 第3節では10年間の施策・取組の方向性を打ち出すことを明確化
- 「創造ネットワーク」については、第1節の「踏まえるべき視点」に「創造的な活動の展開」を記載

修正後の目次構成（案）
前文 第7章への導入
第1節 札幌の現状と将来を展望した動向・都市課題（概ね20年先を展望）
1 都市空間の現状と課題
（1）都市基盤・防災力
（2）暮らし・コミュニティ
（3）魅力・活力
（4）環境
2 踏まえるべき視点
（1）道内他都市との連携
（2）創造的な活動の展開
第2節 目指すべき都市空間の姿
1 目指すべき都市空間 持続可能な札幌型集約連携都市
2 将来の都市空間の姿
（1）市街地
（2）都心
（3）拠点
（4）ネットワーク
（5）都市基盤
第3節 施策・取組の方向性（今後10年の取り組み）
1 魅力ある市街地への再構築
（1）複合型高度利用市街地
（2）郊外の市街地
2 魅力的で活力のある都心のまちづくり
3 多様な交流を促す拠点の創出
（1）地域交流拠点
（2）高次都市機能交流拠点
4 ネットワークの強化
（1）交通ネットワーク
（2）エネルギーネットワーク
（3）みどり空間ネットワーク
5 都市マネジメントの推進
（1）都市基盤の効率的な維持保全
（2）防災力の高いまちづくり

7章への導入

【都市空間の創造の重要性】

- 都市空間とは、様々な活動が展開されるフィールドであり、都市構造（鉄道、道路や公園・緑地など、都市を形作る物質的な構造）に加え、都市の気候や風土、景観、ライフスタイルなど、多角的な視点で捉えた都市の空間構成の姿。
- このビジョンで示してきた札幌のまちづくりを進めていく上では、様々な活動の展開を下支えする札幌らしい質の高い都市空間の創造が重要。

【長期的視点からの検討の必要性】

- 都市空間の更新には長期的なスパンが必要。そのため、10年を超えた長期的な視点に立った検討により、目指すべき都市空間の姿を設定し、そこに向けた取組を実践していくことが必要。
- 第1節と第2節で概ね20年先を展望した目指すべき都市空間の姿を示した上で、これを実現していくために、第3節では、今後10年間で重点的に推進すべき施策の方向性を示す。

【都市空間を検討していく上での視点】

- 「都市基盤」の観点と、このビジョンで重点的に取り組む必要があるとして設定した「暮らし・コミュニティ」「産業・活力」「低炭素・エネルギー転換」の3つのテーマを重視し、将来の都市空間のあり方を示す。

まちづくり戦略ビジョン <ビジョン編>

【第3章 都市像】

- 北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち
- 互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち

【第5章 ビジョンの推進】

- 北海道と共に発展する札幌
- (1) 北海道の資源との連携
- (2) 北海道内の経済循環の促進
- (3) 北海道の魅力の発信

第1節 現状と将来（概ね20年先）を展望した課題

現状課題

①都市基盤・防災力

- 集中して整備した都市基盤の老朽化
- 防災拠点施設、ライフラインなどの耐震性

視点

②-1 暮らし・コミュニティ

- 移動に不便を感じる高齢者が増加・外出機会の減少
- 積雪寒冷への対応が必要

②-2 産業・活力

- グローバル化に対応した都市の競争力の強化が必要
- 都心へのアクセス性に課題

②-3 低炭素・エネルギー転換

- 二酸化炭素排出量の削減が必要
- エネルギー利用の効率化が必要

展開方針

①道内他都市との連携の強化

- 道内周辺他都市の資源の活用
- 広域交通のネットワーク強化
- 札幌の高次な都市機能の活用

②創造的活動の展開

都市基盤・防災の観点と、ビジョン編で位置づけた戦略的に取り組むべき3つのテーマから都市づくりの方向性を設定

第2節 目指す都市空間の姿

都市づくりの方向性

【都市基盤・防災力】

- 都市基盤の計画的かつ効率的な維持・管理
- 都市基盤施設や建物などの耐震化、災害に強いライフラインや緊急輸送路、避難場所の確保

持続可能

【暮らし・コミュニティ】

- 雪を楽しみながら暮らすまちづくり
- 冬期間の快適な暮らしを支える除排雪の推進

【産業・活力】

- 北海道・札幌の魅力を発信するショーケース機能が集積した拠点の形成・育成
- 札幌らしい豊かな自然や既存の都市機能の活用

札幌らしさを生かす

【低炭素・エネルギー転換】

- 既存の熱供給ネットワークを生かした都市づくり
- 環境首都・札幌の推進

集約する

・都心や地下鉄駅周辺などへの多様な都市機能の集約

- 地下鉄駅周辺等への公共施設の配置
- 高齢者向け住宅等の立地促進

- 都心への高次な都市機能の集約
- 物流・商流の拠点機能の強化
- 研究開発やものづくり機能の集積

- 機能が集約されたコンパクトで効率的な都市
- 熱供給エリアにおけるエネルギー拠点の集約

連携を強化する

- 公共交通による地域の拠点と生活圏の連携

- 交通ネットワークの強化
- 広域経済圏の交通ネットワークの強化

- 公共交通で各地をつなぐ、自動車に過度に依存しないまちづくり

- みどり豊かな空間の創出・連携

- エネルギーネットワークの強化・構築
- 再生可能エネルギー活用の広域的連携

持続可能な札幌型の集約連携都市

人口減少・超高齢社会の中でも、先人がつくりあげた都市基盤を守り、既存施設の利便性などを高めていくことで、持続可能な都市を構築する。

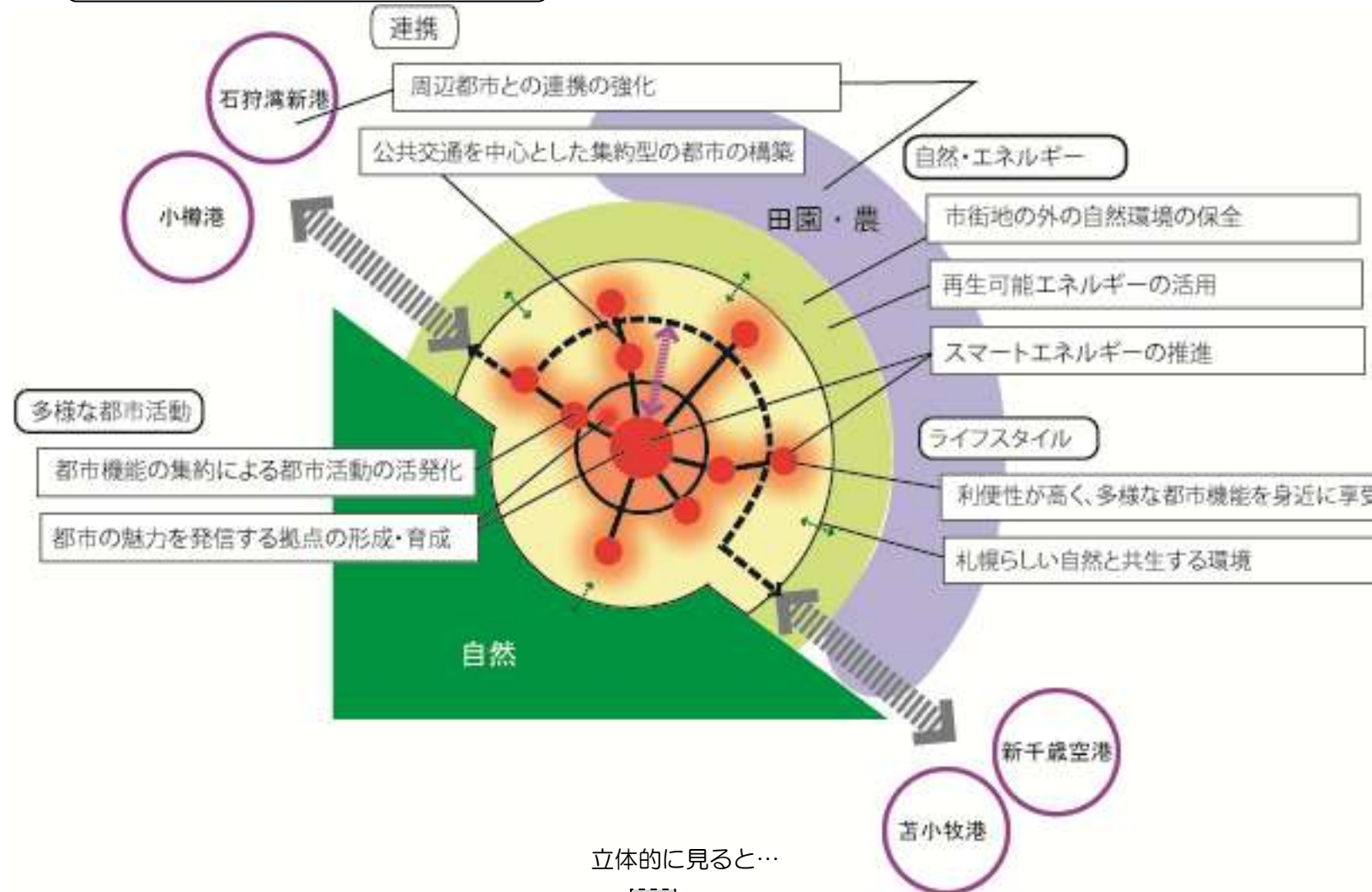
さらに、札幌らしい都市を目指し、以下の観点を重視した都市づくりを進める。

豊かな自然と共生した北国らしい快適な暮らしを実現する都市

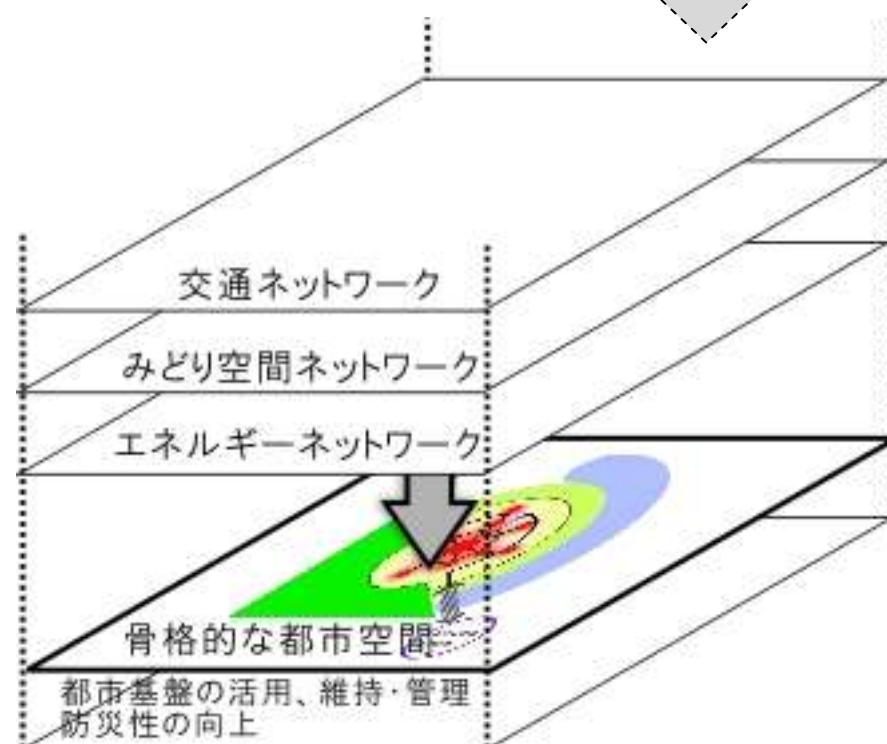
北海道の中心都市にふさわしい風格と都市機能を備えた都市

環境首都・札幌を推進する都市基盤や都市機能を備えた都市

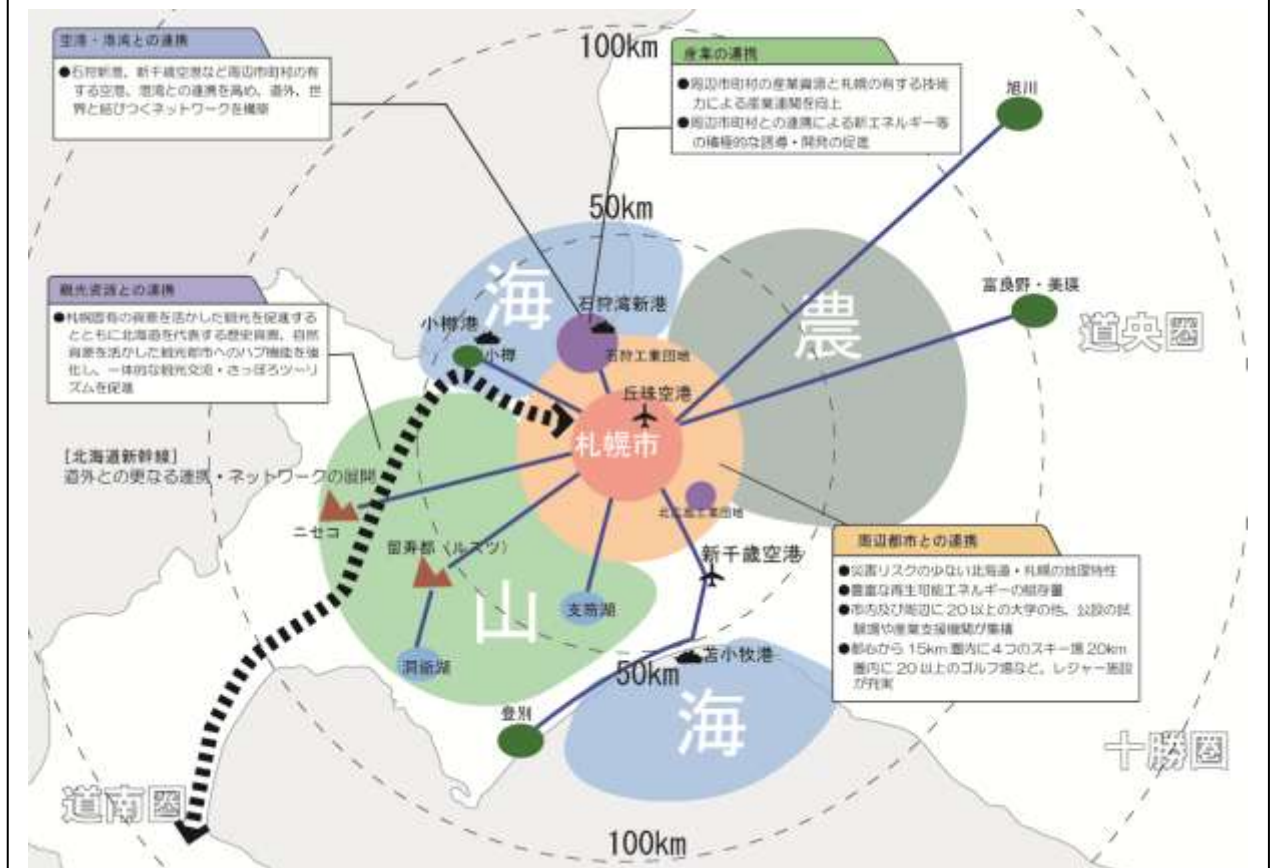
札幌型の集約連携都市のイメージ図



立体的に見ると…

都市空間を支える安全な都市基盤と
3つのネットワークを強化

—参考— 「札幌らしい」魅力資源



「札幌らしい」魅力資源

札幌市とその周辺には、各種大学や研究機関、産業支援機関が集積するとともに、札幌市近郊には石狩市や北広島市に大規模な工業団地が存在しています。また、都心から15km圏内に4つのスキー場が存在し、仕事の後でも気軽にスキー場へ行くなど、札幌ならではのライフスタイルを楽しむことができます。さらに、札幌の100km圏内にはニセコやルスツ、洞爺湖、富良野など世界的にも有名な観光地・リゾート地が多く存在しています。そして、2つの空港と3つの港湾が存在又は近接していることから、道外・海外からの観光客や物流品は、札幌を経由して道内各地へ移動、分配されるなど、札幌市は北海道のハブとしての役割も果たしています。

持続可能な『札幌型の集約連携都市』の実現に向けては、集約型の都市構造への強化を図るとともに、ゆとりある郊外の市街地の維持保全や、さまざまな連携を強化していくことが必要です。このような考え方にに基づき、目指すべき将来の都市空間の姿を示します。



目標とする将来の姿

今後、特に重点的に再生・強化・育成などを進めるべき都市構造と、目標とする将来の姿を以下に示します。

1 市街地

(1) 複合型高度利用市街地

- 多様な機能が複合した高密度な市街地が形成されることで、利便性の高い居住ニーズに対応しつつ、効率的で快適な都市活動が展開されています。

(2) 郊外の市街地

- ゆとりある良好な環境が維持保全されるとともに、市民・企業・行政の連携による創造的な発想・活動の展開により、地域の魅力がさらに高まっています。

2 都心

- 札幌の都市構造の最も中心的な役割を担い、札幌の顔にふさわしいまちづくりが重点的に進められることで、多くの人が集まる魅力的な都心が形成されています。

3 拠点

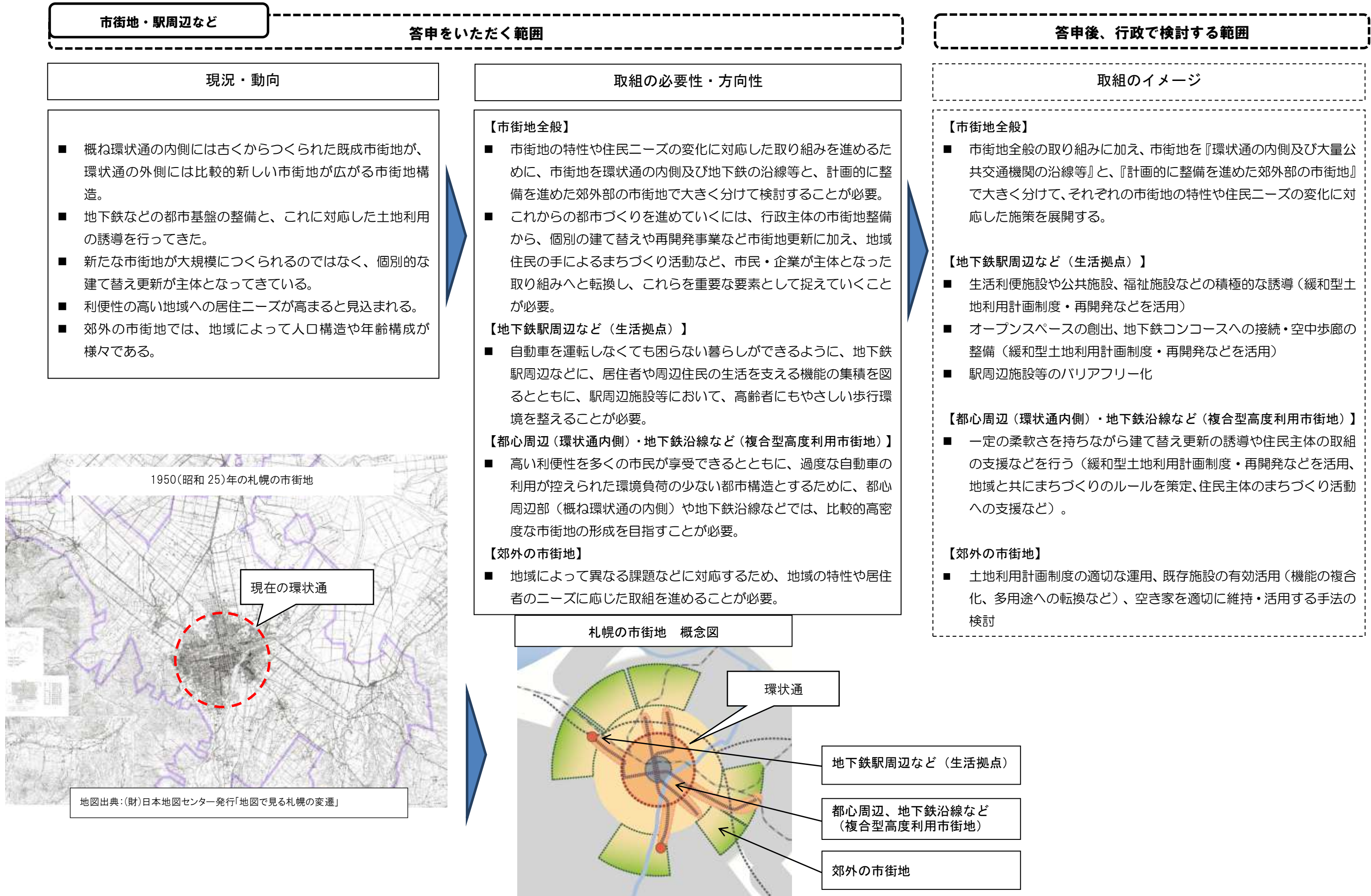
- 大量公共交通機関の主要駅周辺などでは、多様な都市機能が集積するとともに、冬でも快適な歩行空間が整うなどにより、高齢者なども安心して訪れることができる環境整備が進んでいます。
- 札幌の魅力を強く発信する交流拠点の形成・育成により、多くの人・モノを呼び込むことで、都市の活力が向上しています。

4 ネットワーク

- 使いやすい公共交通が充実することで、公共交通を中心としたまちになるとともに、都市間連携や空港・港湾へのアクセスを支える広域交通ネットワークが強化されることで、道内外・海外との結びつきが一層強まっています。
- 効率的なエネルギーシステムの導入や循環型社会の構築、広域的なエネルギー連携などにより、低炭素社会と脱原発依存社会の実現に向けた取組が進んでいます。
- 快適な移動や憩いの空間となるみどり豊かな空間を創出・連携することで、身近にみどりが感じられる美しいまちとなっています。

5 都市基盤・防災力強化

- 都市基盤の効率的な維持・保全や、市有建築物の機能の見直し・複合化などにより、社会資本の投下、公共サービス経費の増大を抑制します。
- 都市基盤施設や建物の耐震化などが進み、地震などの大災害に強い都市が形成されています。



都 心

答申をいただく範囲

現況・動向

- 札幌駅前通地下歩行空間や創成川公園の整備など、魅力あるまちづくりを推進
- 民生業務部門のうち、都心部の二酸化炭素排出量が占める割合は、およそ3割弱（都市再生プロジェクト エネルギーネットワーク構築調査（H17.3）の概算より）
- 都心居住へのニーズの高まり、特に創成川以東地区での居住人口が増加。
- 札幌大通まちづくり株式会社、札幌駅前通まちづくり株式会社などによる地域主体のまちづくりが推進されている。

取組の必要性・方向性

- 都心は、都市の中核として、札幌の魅力が端的に表現され、誰もがそれを享受できる場とするとともに、国際都市として魅力を発信していくために、多様な都市機能が集積した都心の魅力と活力を高めていくことが必要。
- 都市機能が集積し、エネルギー消費量・温室効果ガスの排出量の大きい都心では、地球環境問題及び災害時のエネルギー安全保障の問題に対し、より先進的かつ積極的に取り組むことが必要。
- 創成川以東地区では官民協働による計画的なまちづくりを進めることが必要。
- 多様な関係主体が目指すべきまちの姿を共有し、組織的に取り組むことが必要。

抛点

現況・動向

- 交流機能や研究機関が集積するなど、本市の魅力と活力を高める拠点が形成されつつある。

取組の必要性・方向性

- 多くの人やモノを呼び込み、交流を生むことで都市の活力を高めるために、札幌の魅力を強く発信する拠点の形成・育成が必要

取組のイメージ

- 都市の魅力・活力を高めるために、多様な交流を促す機能集積や空間創出を図る地域を設定し、各拠点の機能が十分に発揮されるよう育成を図る。

(交流拠点のイメージ)

□北大周边

新しい産業の振興の源泉となる技術の研究開発、活力ある企業や人材の育成などに向けて、産・学・官が協働して取り組むための中心的な拠点としての形成を促進する。

☐ 苗穗地区

苗穂駅の移転にあわせて、居住機能の充実、医療・福祉機能や集客交流機能の配置、ゆとりと潤いのあるオープンスペースの確保、積雪寒冷地にふさわしい歩行者ネットワークの強化など、都心に近接した交通結節点にふさわしい市街地環境の整備を図る。

想定される交流拠点の取組



苗穂駅周辺のまちづくり

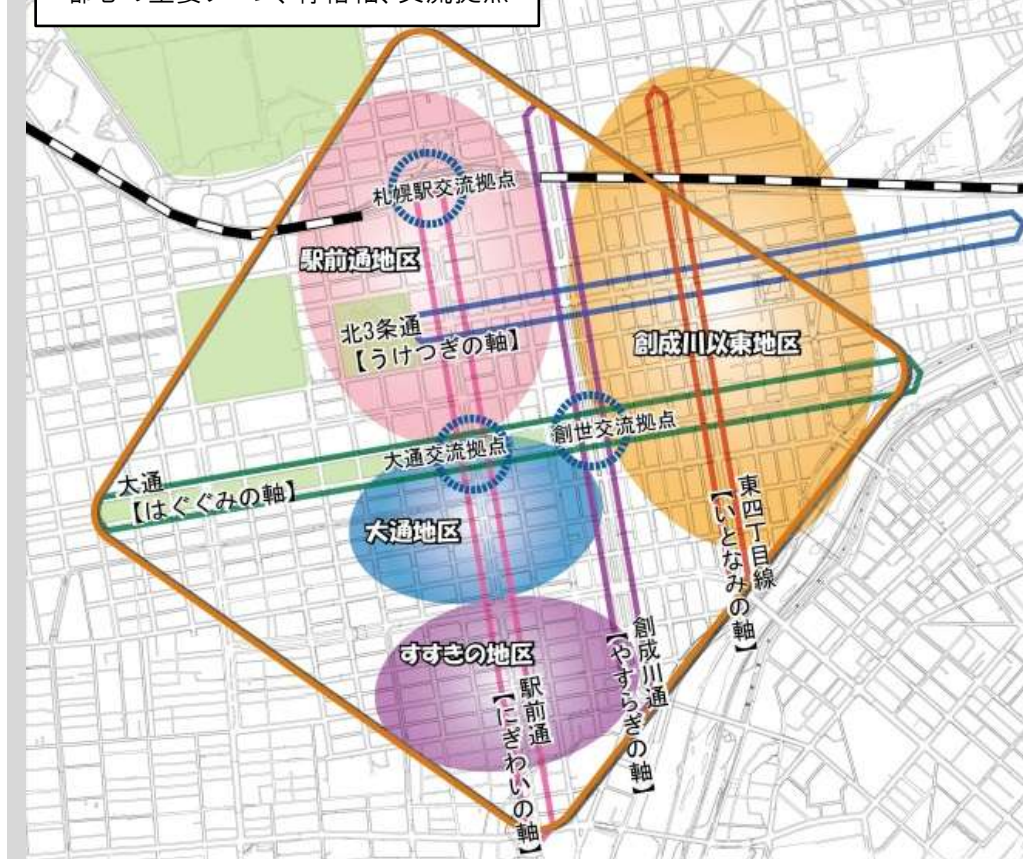


答申後、行政で検討する範囲

取組のイメージ

- 活動の基軸となる骨格軸やそれらの交点である交流拠点などの骨格構造、及び地区特性に応じた4つの主要ゾーンの機能強化を図る。（大通交流拠点、創世交流拠点、札幌駅前通地下歩行空間への接続の誘導など）
- 集約連携都市の実現に向けた役割や、都心にふさわしい機能の在り方など、将来を見据えたまちづくりの指針を作成。
- 積雪寒冷地にふさわしいエネルギー有効利用都市を先導する市街地の形成を目指し、エネルギーの多様化、分散化、効率化、省力化を官民協働で推進する。（自立分散型のエネルギー供給拠点の整備及びネットワーク化の促進など）
- 創成川以東地区まちづくり計画（H25 策定予定）に即したまちづくりの推進
- 都心のエリアマネジメント組織の設立検討・協働によるまちづくりの推進

都心の主要ゾーン、骨格軸、交流拠点



ネットワーク

現況・動向

【交通】

- 近年、地下鉄・JR・路面電車の乗車人員数はほぼ横ばいだが、バスは減少傾向。
- 都心から高速道路の乗り口までの距離が遠い。

【エネルギー】

- 熱事業者による熱導管ネットワークが存在している。
- 札幌は道内の消費電力量の 1/3 を占める大消費地。

公共交通の利用者推移
札幌市内 機関別日平均乗車人員

公共交通の利用者推移 資料：札幌市統計資料

バスの利便性向上

例：
地域のニーズや需要に応じたルートの見直し等

答申をいただく範囲

取組の必要性・方向性

【交通】

- さまざまな都市機能の利用が容易で、誰もが多様な活動が可能となるとともに、過度な自動車の利用が控えられた環境負荷の少ない都市とするために、公共交通を中心とした集約型の都市とすることが必要。
- 新千歳空港など、道内の各地から都心へのアクセス性を高めることが必要。

【エネルギー】

- エネルギー利用の効率化を図るとともに、災害発生時にも安定的なエネルギー供給を可能とするために、再生可能エネルギーの利用拡大や自立分散型エネルギーネットワークの強化が必要。
- 札幌近郊に賦存する再生可能エネルギーの活用が必要。

エネルギーネットワークの取組イメージ

スマートコミュニティのイメージ

＜資料＞経済産業省

ごみ処理エネルギーの効率的な活用の拡大

風力・地熱・太陽光発電の広域的な活用の検討

都心のエネルギーネットワーク

施設更新・再開発などに合わせた環境性能の高い建築の整備

都市基盤整備などと連動した熱供給導管のネットワーク化

既存の熱供給体制の活用

エネルギーネットワークが展開されている主な地域

答申後、行政で検討する範囲

取組イメージ

【交通】

- 公共交通利用者の利便性向上などによる地下鉄・路線バスなどの利用促進を図る。
- 観光・物流の活性化などを支える都心アクセス道路の検討

【エネルギー】

- 既存の熱導管ネットワークの有効活用・さらなる展開など、エネルギーネットワークの強化を図る
- 都心における自立分散型エネルギー供給拠点の整備及びネットワーク構築の促進、需要家のネットワークへの接続の促進
- 個別の建物の更新などの際に、エネルギーネットワークへの接続などを促進
- 広域圏で連携した大規模再生可能エネルギーシステムの導入促進策の展開

答申をいただく範囲		答申後、行政で検討する範囲	
ネットワーク	現況・動向	取組の必要性・方向性	
	【みどり】 - 市街地及びその周辺のみどりは減少傾向 - 郊外の市街地に比べ、既成市街地のみどりや公園が少ないなど地域格差も見られる - 都心部などでは、みどりを創出できる空間は限られる。 - 二酸化炭素低減や生物多様性保全など地球規模の自然環境の保全の取り組みが必要	【みどり】 - 札幌らしい良好な都市空間の構築には、みどりが持つ役割（生態系の保全や大気の浄化のほか、美しい都市景観の創出、災害時の避難場所、レクリエーションの場、生活に潤いや安らぎを与えるなど）はとりわけ重要であるため、その機能が効果的に発揮させるよう、みどりの創出・連携を進めることが必要。 - 行政単独でのみどりづくりには限界があり、市民にみどりへの愛着を促すためにも、都市づくりの様々な場面において、市民との協働によりみどりの創出が重要。 - これまで公有地化等により森林の保全を進めてきたが、今後は、地球環境保全のために一層の効果が発揮できるよう検討を進める。	取組イメージ 【みどり】 - 市街地を取り囲むみどりと、拠点となるみどりを関連づける軸である主要な道路や河川の空間を生かしたみどりのネットワークの充実、既成市街地など公園の未充足地域へ歩いて行ける身近な公園を整備することによるネットワーク化を図る。（市民と共に進める大規模な公園や既成市街地へ身近な公園の整備） - 公有地緑化に加えて、市民や企業による民有地緑化を推進するなど、市民、企業、行政などの協働によりみどりの充実を図る。（民間施設の敷地内緑化や屋上・壁面緑化への支援） - 市街地を取り巻く森林の整備の検討や実施を進める。

